

運輸安全委員会事故調査報告書 再発防止策に対する対応

1. 脱線・逸脱防止対策を更に推進していく必要がある。

[対応]

- ・各社、引き続き整備促進を図っていく。

2. 脱線・逸脱防止対策の推進に当たっては、今回の事象を踏まえ、地震発生リスク、様々な条件から推測される脱線発生リスク、脱線後の走行によって生じる被害の大きさ等を考慮して脱線・逸脱防止対策の整備計画の検討を行い、実施していくことが重要である。

[対応]

- ・各社、自社の現在の整備計画が、上記観点について考慮された整備計画であるか、見直しの必要性を含めて確認していく。

3. 脱線が発生した後も逸脱防止対策の機能が損なわれることがないように、車輪が枠型スラブ穴部の前面壁に衝撃した場合に生じる衝撃力について評価し、必要に応じて安全性を向上させるための研究開発を行うことが望まれる。

[対応]

- ・どのような検討を行っていくべきかという点を含め、実務者レベルで検討を行っていく。

※検討内容：運輸安全委員会の報告書を踏まえ、脱線防止ガード、逸脱防止ストッパ方式の枠型スラブ区間での影響を検討